

建設通信新聞

你好

中国市場

下

オオハ

オオハの中国でのスタートは1998年にまでさかのぼる。上海市の同済大学と大阪市立大学の共同研究に、実務側の専門家として参加したことがきっかけ。同済大学の人脈を通して上海市や四川省の省都である成都市を中心に、都市設計、ニュータウン設計、公園緑地設計など約100件の実績がある。これらはすべて、現地政府や地元ディベロッパーから受注した。

2010年2月に来日した瀋陽市訪日団を、中央三井信託銀行の紹介で大場明憲社長らが表敬訪問したことで、歯車が動き出した。同市に100%子会社、大場都市

環境設計コンサルタント(瀋陽)有限公司を10月に設立した。

300社の公園など

瀋北市から4件受注

大場都市環境はすでに、瀋陽市から市北部の瀋北新区で4件のプロジェクトを受注している。瀋河の河川敷でシンボルとなる記念林広場(1・9畝)の基本計画、ホテルや高級レストランなどを建設する瀋河会所公園(53・8畝)のモデルプラン、遼河河原公園(2

基本設計を手掛けた記念林広場



88畝)の基本構想、瀋河中流部に位置する電子城広場(9畝)の基本計画だ。

総経理を務める阿部賢一執行役員営業副本部長兼海外業務室長は、「日本ではできない規模の大きい仕事ができるため、技術者と

してやりがいがあると強調する。発注は入札方式だが価格だけで決めず、業務実績や技術者の経歴など総合的に判断して1社に絞り込み、金額をネゴで決めていくという。

履行期間の要求は厳しく、日本と比べ2分の1から3分の1の短期間で仕上げなければいけない。その代わり、成果に満足すれば高い評価を受け、仕事の声がかかる。これまでの実績が評価され、瀋陽市と無錫市にまたがる1700社の開発と環境保全のマスタープランを、今月中にも受注できる見通しだ。

民間市場参入へ パートナー得る

今月6日、民営化された遼寧省

都市郊外建設計画設計院と業務提携を結んだが、現地で内装をメーンとする建築設計事務所とも提携に向けて交渉を進めている。「彼らは外資系と組めば、規模の大きい仕事を受注できる。われわれは民間市場に参入する場合のパートナーを得る」(阿部室長)。

中国でのビジネスは、日本で取引がある企業の進出をコンサルテイングする仕事も視野に入れてい。すでに、日本企業から中国でショッピングセンター建設の市場調査を受注した。日本の企業同士だと安心感が生まれるため、日本での関係を中国でも展開する方針だ。

中国での11年(1~12月)売上高は1億円が目撃で、このうち上海や成都などが3分の2、瀋陽市が子会社設立1年目にして3分の1を目指している。

(おわり・橋本文文)

日本企業の進出をコンサル